

修士論文(要旨)

2012年1月

予備教育機関における台湾人日本語学習者の「話す能力」に関する事例研究
—入学直後、入学半年後、修了直後に着目して—

指導 堀口純子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
210J3020
林襄穎

— 目次 —

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究目的	2
1.3	先行研究	3
第2章	調査概要と分析方法	7
2.1	調査概要	7
2.2	分析方法	9
第3章	事例1 TF1	11
3.1	結果と分析	11
3.2	考察	21
第4章	事例2 TF2	24
4.1	結果と分析	24
4.2	考察	35
第5章	事例3 TF3	38
5.1	結果と分析	38
5.2	考察	48
第6章	おわりに	51

謝辞

参考文献

添付資料

【要旨】

留学は日本語学習において重要な役割を果たすと考えられている。その理由の一つに、実際に日本での生活体験を通して、日本に関して理解を深めることが可能であることが挙げられる。もう一つは、日常的に日本語が使われる環境に置かれたほうが、日本語をより習得しやすく、「話す」能力も向上することが考えられる。但し、日本に留学さえすれば、「話す」能力が必ずしも上達するとは限らない。ある先行研究では、四技能のうち会話能力が上達しなかった結果は報告しているが、会話能力が上達しなかった要因については言及していない。

「話す」能力の発達には、学習環境など外部の要因や学習者自身の個人的要因などが相互に複雑に関与し合うと考えられる。これまで日本語学習者の多様性は主として学習者の国籍・学習歴・ニーズといった側面から類型化された集団の問題として捉えられる傾向があった。小柳(2004)は、第二言語習得研究においては普遍性を追求することが多かったため、個人差の研究は遅れをとってきたとし、習得の全体像を明らかにするためには個別性を見ることが必要だと指摘している。一人ひとりの学習にかかわる要因と、その相互作用はさまざまであり、それを個別性としてとらえることが大切であろう。すなわち、個別的要因をとらえることで、「話す」能力の学習過程が明らかとなり、個別性への対応が可能となるだろう。林(2006a)が指摘するように、学習者の多様性を生み出す個別性に対応していくには一人ひとりの学習者がどのように環境と相互作用しているのかを探ることが重要である。

これを踏まえて、本研究では、学習者の個別的要因と「話す」能力の発達の関連性を見るため、2011年8月から2011年10月まで継続的に調査を行い、1人の調査協力者につき3回の半構造化インタビュー調査を実施した。これまで出身国、世代、身分、私費留学生といった属性・背景が同じであることから、同じ集団に属すると捉えられてきた予備教育機関における3名の台湾人留学生を調査対象とし、入学直後から入学半年後まで(「入学直後」という)、入学半年後から修了直後までの「話す」能力の変化のプロセスと学習者の個別的要因との関連性について分析し、彼らの置かれている環境と学びとの関連性について明らかにした。

研究結果として、3名の調査協力者の入学直後の「話す」能力は不十分であったが、入学半年後は入学直後より向上したと認識していることが分かった。また、修了直後の話す能力について、入学半年後より向上したと認識していることが分かった。3名の調査協力者とも言語学習のために、非対人的環境としてのメディア(テレビ、ラジオ)への接触により、社会情勢を知り、社会への参加窓口として利用するという傾向が見られた。

話す能力の習得にはさまざまな社会文化的な要因が影響し、そのため、話す能力と社会言語文化能力は密接に関連し合っているということが言える。教師は正しい文法形式や日本文化といった表面的な知識を教えるだけでなく、同時にその背景にある社会文化的な要素も教えることが重要だと稿者は考える。それにより、目標言語圏の文化だけでなく、同時に自文化に対する気づきや理解を促すことができるだろう。教師は教室外の学習環境も生かし、学習者の話す能力の向上を支援することが求められている。その具体的な方法を追究していくことは、今後の課題としたい。

参考文献

- 許岩 (2010)『中国人私費留学生の言語習得および生活適応—来日後半年間の変化を中心に—』桜美林大学大学院修士論文
- 金城尚美・元山由美子・肖嬌 (2007)「日本語学習者と環境との相互作用に関する一考察—3人の学部生の調査から—」『留学生教育:琉球大学留学生センター紀要』4 pp. 43-66
- 高凡晴 (2005)『台湾の日本語学科における短期留学プログラムについての—考察—その現状及び問題点を中心に—』銘傳大学応用日本語学系修士論文
- 兒島慶治 (2003)「海外での日本研究専攻プログラムにおける日本留学効果に関する—考察—香港中文大学日本研究学科主専攻生の日本語能力の分析—」『留学生教育』(8) pp. 153-172
- 小堀郁夫 (2002)「外国人留学生と日本語教育—私費留学生の場合—」『明海日本語』第7号
- 小柳かおる (2004)『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク
- 坂本正・小柳かおる・長友和彦・畑佐由紀子・村上京子・森山新 (2008)『多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育』スリーエーネットワーク
- 孫毅權・山本広志 (2009)「短期留学生の日本語能力に関する自己上達感—台湾人留学生の場合—」『山形大学紀要 (教育科学)』第14巻第4号 pp. 41-56
- ネウストプニー, J. V. (1999)「言語学習と学習ストラテジー」『日本語教育と日本語学習ストラテジー論にむけて』 pp. 3-21 くろしお出版
- 浜田麻里・林さと子・福永由佳・文野峯子・宮崎妙子 (2006)「第2章学習環境—日本語学習者と学習環境の相互作用をめぐって」『日本語教育の新たな文脈』国立国語研究所, pp. 66-100
- 林さと子 (2004)「非対人環境<テレビ>との相互作用—日本語学習と社会参加—」文野峯子『日本語学習者と環境の相互作用に関する研究』科学研究補助金基盤研究(c)(2)研究成果報告書, pp. 39-46
- 林さと子・池上摩希子・小西正恵・島崎美登里・関麻由美・田近裕子・田中幸子・八田直美・春原憲一郎・八木公子・吉田真理子 (2006)『第二言語学習と個性: ことばを学ぶ一人ひとりを理解する』津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ編
- 文野峯子 (1999)「学習過程における動機づけの縦断的研究—インタビュー資料の複眼的解釈から明らかになるもの」『人間と環境—人間環境学研究所研究報告』3 pp. 35-45
- 宮崎里司 (1999)「最近の学習ストラテジー研究のいくつかの動向」宮崎里司・J. V. ネウストプニー (編)『日本語教育と日本語学習—学習ストラテジー論にむけて』くろしお出版
- 宮副ウォン裕子 (1998)「自律的日本語学習支援のためのネットワーキングストラテジー」『日本学刊』 pp. 45-59
- 宮副ウォン裕子・上田美紀・渡辺民江 (2003)「カンパセーション・パートナー・プログラムの参加者は何を学びあったか—中部大学生と香港理工大学生の双方向的学習の調査と分析—」『留学生教育』第8号 pp. 201-220

李霽芳（2003）『大学の日本語学科における会話教育の現状と課題』銘傳大学応用日本語学系修士論文